

40 歳

## 基本的な技術を見直す

北海道野付郡別海町別海小学校 水野正司

◆向山洋一氏の「まめでんきゅう」の授業記録を読む。

『実物資料集・第4巻』である。授業は1985年2月19日。2年生の授業だ。

- ⑤8 ここに、こういうものがあります。
- ⑤9 見たことがある人。
- ⑥0 さわったことがある人。
- ⑥1 これを取りかえたことがある人。
- ⑥2 ラジコンで何回もある。はい。これをあげます。班長さん、取りにいらっしやい。
- ⑥3 はい。これをぎゅっとやるとやぶけます。やぶきなさい。1こずつ。
- ⑥4 ゴミはここに持ってきて。孝太君、ここへ持ってきて。
- ⑥5 それじゃ、先生の方を見なさい。
- ⑥6 太宰君。太宰君。先生の方を見なさいって言ったんだね。手に持っているものを全部置きなさい。手に持っているものを全部机の上に置きなさい。トッチャン、聞こえますか。はい、手に持っているものは全部机の上に置きなさい。はい。
- ⑥7 えー。乾電池と言います。言ってごらんなさい。
- ⑥8 この中には何かがつまっています。何かがつまっています。目に見えないけどつまっているんです。
- ③2 乾電池。
- ③3 ハーイ。
- ③4 ハーイ。
- ③5 ラジコンで何回もある。
- ③6 乾電池。
- ③7 電気。
- ③8 毒みたいなもの。

◆また、こうある。

- ⑩4 よかったなア。
- ⑩5 つかない人、前にでておいでよ。  
でておいで、でておいで。
- ⑩6 みんなでてらっしゃい。
- ⑩7 ケイコちゃんもおいで。
- ⑩8 後であげます。後であげますから、  
先生の方、向いて。すわって。
- ⑩9 手にあるもの、下に置きなさい。  
ころがらないように。向山先生の方  
を向いて。
- ⑩10 座間さん、先生の顔が見えますか。  
今ね、青木君がい〜いことをナッチャ  
んに言ったの。ね。何てったの。
- ⑩11 え、ここを何。
- ⑩12 ここを切った人。
- ⑦4 あ、ぼく。(7人集まる。)
- ⑦5 見えます。
- ⑦6 ここを切んないとつかないの。
- ⑦7 切んの。
- ⑦8 ハーイ。

◆根本正雄氏が次のように分析している。

話のきかせ方であるが、かならず教師の方を向かせてから行っている。

- 1 前を向いてごらんなさい。(授業の最初)
- 2 先生の方を見なさい。
- 3 おへそを先生の方にむけなさい。
- 4 向山先生の方、向いて。
- 5 先生の方、むきなさい。

45分の授業で5回、先生の方を見させてから話をしている。これを徹底して  
いる。

次に手に持っているものを机に置かせる。そして、作業をやめさせてから話を  
する。

- 1 手に持っているものを全部、机の上に置きなさい。
- 2 物を全部、置きなさい。(おへそを先生の方にむけなさい。)
- 3 手にある物を下に置きなさい。(向山先生の方、向いて)

- 5 古賀君、えんぴつを置いて。
- 6 青木功太君、えんぴつを置きなさい。

手に物を持っていると、教師に集中しないのである。ハサミを持っている。えんぴつを持っている。これでは話をきかない。  
向山先生は、くどいくらい、これを言う。そのあと、先生の方を向きなさいという。

全員の子どもが、教師に注目した時、パッと話をする。そのタイミングと間がすばらしかった。

◆初期法則化の臭いを感じる。俺の血が騒ぐ。

<教師の方を向かせてから話す>

たったこれだけのことなのだが、たったこれだけのことをさも大発見があったかのように喜び騒ぐのが初期法則化の血である。

せっかくだからその血の望むままに分析を続けよう。

子どもたちの作業を止めさせる場面である。

「それじゃ、先生の方を見なさい」

これは何か。全体への指示である。

まず全体への指示を出す。

それだけか。まだある。指示の言葉が短い。字数にして13文字である。一文一義である。この点は根本氏が次のように分析している。

3番目に、発問、指示、説明の言葉がたいへんに短い。簡潔である。ほとんどが15文字以下である。

一文に一事である。たいへんわかりやすい。

中の物を外に出しなさい。_____	14
外までやりなさい。_____	9
全部、出します。_____	7
こういふのがあります。_____	10
ひっくり返しなさい。_____	10
何も書いてありません。_____	11
そこに名前を書きなさい。_____	12

ふくろの中に紙だけでもどします。_____	16
きいろの箱と水色の箱があります。_____	19
これを組み合わせて、袋にもどします。_____	18

子どもが動くはずである。1つの言葉に1つのことだけを指示している。混乱がない。

子どもは的確な指示によって、静かに活動している。

短い発問、指示、説明は最後まで続く。西川先生の感想にもあったが、枝葉がなく、幹だけの発問、指示、説明である。

1つ1つ、ていねいに指示していく。くどいくらいにしていく。それで、どの子ども活動できるのである。

◆根本氏の分析に大事な所がある。「くどいくらいにしていく」という所だ。もう一度授業記録を見てみよう。

- ⑥5 それじゃ、先生の方を見なさい。
- ⑥6 太宰君。太宰君。先生の方を見なさいって言ったんだね。手に持っているものを全部机の上に置きなさい。トツちゃん、聞こえますか。はい、手に持っているものは全部机の上に置きなさい。はい。

なぜくどい位にしつこく言っているのか。それは一時に一事の指示だからである。まず一つの指示を出す。それが完結したのちに次の指示を出す。完結しなければどうするか。一文一義の短い指示だからその指示をほとんど同じように繰り返せばよいのである。同じような指示がくり返される。だから「くどい」ように感じられるのである。

ここまでのことをまとめる。

まず全体への指示を出す。

その指示の言葉は短い。

できなければその指示をくり返す。

◆分析はまだ続く。

くり返しの仕方には次の二通りある。

- ① 個人名をつけてくり返す
- ② 個人名をつけずにくり返す

つまり、全体的に指示が通っていない場合は ② であり、何人かの子だけができていなければ ① になる。

何人かの子ができていなければ名前を呼んでくり返す。

◆そして、これは言うまでもないことだが、このこともくり返し出てくる。

手に持っている物を置かせてから話す。

なぜ置かせるのか。

手に物を持っているとそれをいじって遊んだりする。そのため教師の話に集中できなくなるという理由が一つ。これは手に物を持っていた子への効果である。

もう一つは、手に物を持っていなかった子への効果である。教師が何も言わずに話に入った場合と比べてみればよい。教師がわざわざ「置きなさい」と言った場合は、<途中で物をいじってはいけないよ>という意味の信号を送ったことになる。つまり、話の途中で注意しないで済むようになるのだ。

◆そして注目すべきは根本氏の次の分析である。

「全員の子供が、教師に注目した時、パッと話をする。そのタイミングと間がすばらしかった」

これは授業記録からは読み取れない。生の授業を見た根本氏だからこそ分析できたことである。

この分析から言えることは次のことである。

確認をしている

指示が完結したかどうかの確認である。

つまり、教師は全員の子を見ているのである。当たり前なことだがなかなかできることではない。少なくとも私はよく忘れる。意識していなければ指示は出しっぱなしで終わる。なんとなくそろったので次の行動へ移ろうかという程度の行為で終わってしまう。

〈指示したからには確認せよ〉 それすら意識されないことが多い。  
確認をしているからくり返しの指示があったのだ。

くり返しの指示があったということは確認をしていたということである。  
確認を意識している教師は指示のあとの評価もすぐにできる。

「ハイ、そろいましたね。とってもいいですよ」などとほめることもできる。  
確認を意識していない教師は子どもの行動をほめることもできない。  
意識していないので、ただなんとなくその場を通り過ぎてしまう。

「全員の子どもが、教師に注目した時、パッと話をする」  
これには次の意味もある。

〈先生はちゃんと見ていますよ〉というメッセージを子どもへ伝えている。

「さあそろいました。これからお話しますよ」というメッセージである。

〈先生はちゃんと見ていましたよ〉〈いつもそうですよ〉という暗黙のメッセージである。向山氏は多分一人の子も見逃さないのだろう。それが教師の統率力を示すことにもなる。

ただしここでは、「さあそろいました。これからお話します」などという間の抜けたことはしゃべらない。教師に注目したならばパッと話をするだけである。

⑩<sup>09</sup> 手にあるもの、下に置きなさい。  
ころがらないように。向山先生の方  
を向いて。

⑩<sup>10</sup> 座間さん、先生の顔が見えますか。  
今ね、青木君がい〜いことをナッチ  
ゃんに言ったの。ね。何てったの。

⑩<sup>11</sup> え、ここを何。

⑩<sup>12</sup> ここを切った人。

⑩<sup>75</sup> 見えます。

⑩<sup>76</sup> ここを切んないとつかないの。

⑩<sup>77</sup> 切んの。

⑩<sup>78</sup> ハーイ。

「今ね」からが教師の話である。

ということは、「先生の顔が見えますか」と「今ね」の間に「教師に注目した時」があったのだと予想できる。〈パッと話をする〉とはそういうことである。

パッと話をする。

◆ここまで分析して次のことが頭に浮かんできた。

---

それは、話を聞けない子、先生の方を向かない子がいたら、普通の教師なら腹を立てたり、イライラしたりするのではないかということである。そこまでいかなくても、ちょっと怒ったように注意したりとか、そういうマイナスの行為で対処する場合がほとんどだと思う。

ところが、これはぼくの予想であるが、向山さんの注意は、あれだけくり返しているのに怒っている感じがしないのである。多分、実際の授業でもそうなのだと思う。

これは何か。多分これだ。

### できなくて当たり前

初めからそう思っているのだと思う。

だからストレスも感じない。

そして、<できなければその指示をくり返す>ということをするだけでよい。

一時に一事なのでそれができる。

一時に一事という原則を守っているから腹も立たない。やさしくもなれる。

<教師の方を向かせてから話す>という場面を分析しただけでもこれだけのことが学べた。

正直なところ、これを書いている私も、こんなに長くなるとは思ってもみなかった。

向山実践は宝の山である。

これからも学び続けたい。

(自己研修通信RAW LIFE No. 3～6)